



2024年12月18日

各 位

会社名 株式会社ビーアンドピー
住 所 大阪市西区江戸堀二丁目6番33号
代表者名 代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥
(コード番号：7804、東証スタンダード市場)
問合せ先 経営管理部部長 近藤 恵太
(TEL. 06-6448-1801)

2024年10月期 決算発表 質疑応答集

当社の2024年10月期決算に関して、2024年12月10日に実施した機関投資家向け決算説明会での質疑応答要旨及びその他株主や投資家などの方々からいただいたお問い合わせや感想について、当社からの回答を以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものです。決算内容の詳細については、2024年12月9日に開示しております決算短信および決算説明資料（決算説明資料については2024年12月16日に訂正の開示をしております）をご覧ください。

質問1：2024年10月期は計画以上に利益率が改善しましたが、具体的にどのようなことが成果となったのか教えてください。

2023年10月期と比較して、利益率は大きく伸長しましたが、これは生産体制の強化による生産性の向上が一番大きなポイントであったと考えております。従来は人に依存しやすい生産体制となっておりましたが、高速で出力できるプリンターや加工機への設備投資により生産工程が効率化されたことが非常に良いインパクトとなりました。また、ここ数年で育成してきたデジタルサイネージやオーダーグッズ制作、ウェブプロモーション等の新規事業が拡大して利益率向上がなされたことも、全体利益率の押し上げに寄与いたしました。

質問2：2025年10月期の計画では利益率が下がるようですが、M&Aをした会社の利益率が低いことが要因であり、デジタルクリエイトなど現在行っている事業のオーガニックな成長という点では着実に改善していくという認識でしょうか。

2025年10月期については、ご質問の通りオーガニックの部分ではさらなる利益率向上に向けた取り組みを強化しています。デジタルクリエイト事業については、マーケットサイズを鑑みるとまだ拡大余地が大きいと認識しており、将来的にはプリントビジネスと同程度の柱となる事業にまで育てる考えです。今回業務提携をしたZKDigimax社は、非常に優れた技術を有しており、ハードとソフト両方を一貫して提供できる体制であるという点が強みです。この非常に細かいところまで考えられた仕組みを当社が日本の先頭に立って販売できますので、非常に楽しみなビジネスであると考えています。M&Aをした株式会社イデイについては、黒字化に注力しており、グループとしては一時的に利益率が下がりますが、中長期で見た際には大きな効果が期待できると考えており、プリントサービス、及び、販促ビジネスに加え、顧客層の拡大が進み、企画提案から生産まで担える総合販促支援企業を目指してまいります。

質問3：中期経営計画の最初の1年が終わりましたが、あらためてこの1年間の評価と見通し、今後の計画に変化があれば教えてください。

当社としては非常に順調に進捗した初年度であったと評価しています。イベント活動の回復等市況の改善と当社の主力のプリントビジネスにおける営業活動が合致し、既存ビジネスが好調でした。また、オーダーグッズ制作やデジタルサイネージ、AR等の新規ビジネスにおける伸び率も高まっており、2年目の収益化加速に繋がる下準備が着実にできたと考えています。また、従来から重点戦略として掲げていたM&Aについても2024年10月末に実現し、こちらも中期経営計画1年目として評価に値する動きであったと考えています。引き続き最終年度に向けて成長戦略を推進してまいります。

質問4：2022年10月期以降毎年増配していますが、累進配当と捉えてよろしいでしょうか。

株主還元は常に積極的な重要指針として掲げており、累進配当を行っているわけではないものの、2022年10月期以降毎年業績の拡大に伴い増配しております。中期経営計画の最終年度である2026年10月期では配当性向40%を目標としており、着実に業績を拡大して株主還元に繋がりたいと考えております。今後も、配当だけでなく、2024年10月期より開始した株主優待制度と合わせて、事業拡大のための成長投資を行いながら、安定的な配当を継続して実施してまいります。

以上